愛し兒よ

これぞ民族の血の叫び
ヒカウキヲ！ハヤク

捨身の熱情が飛行機増産に邁進する各重要工場で捧げられてゐるが、こゝに一つの疑問がある―それは「捨身を誓つて蹶起しない者は日本人として一人もあるまいがその大半が精神的打撃と個人的不満によつて崩れるか、生理的疲勞で挫折しやすい」といふことである。ところが豊和重工業第〇〇工場全従業員は十二日間一歩も工場外に出ず、死なば諸共の熱情によつて理論や計算では不可能の断を下された新鋭航空機の大量増産を完全に達成し得た。それはどうして可能であつたか。それを可能ならしめたのが八歳の幼女から贈られた一通の手紙であつたことは既報（廿八日）の如くであるがこの事實は勤勞管理の上に大きな示唆を與へるといふよりも、この頭上に仇敵を殲滅する一機の翼を採り、遠い祖先から傳はる傳統の「血」がいかに尊いものであるかをはつきりと銘記せしめる。監督官を始め工場幹部のいかなる訓戒、いかなる率先垂範も効なかつたにもかゝはらず、この幼女の手紙が如何に増産戰士の心を揺つたか、同工場従業員に聽かう。【寫眞は大任を果して靜かな眠りを結ぶ従業員】

父の屍を越えて

國を擔へ

研磨工　**平林清定氏**

仮宿舎に泊り込んで與へられた仮眠時間は七時間あつたが幹部は四時間足らずしか寝てゐないことを知りいづれも時間など考へず一日の責任を果すまでは寝なかつたゝめ作業成績は豫定通りに上つたが疲勞は日増しに加はつた。しかも發病して倒れた三氏が入院も歸宅もせず、仮宿舎で臨時手當を受けて再び挺身したのに一同の士氣大いに揚つた。然しそれも束の間、どうやら目標を完遂出來る豫想がつくや今までの疲れがどつと出て私はその夜から幾度も子供の夢を見るやうになつた。これを心配した監督官殿や幹部の方が徹夜で激勵指導されるのには涙の出るやうな感激を覺えたがどうしても身体が前のやうに動いてくれない。娘の定子から手紙を受取つたのはこのときだつた。片仮名の拙い文字で簡單な便りではあつたが「テキノヒカウキガスグソバヘキマスヒヤウキニナツテヤスマヌヨウ　ハヤクヒカウキヲツクツテクダサイ」といふところを讀んだ時、自分のゐない淋しさと戰時下に鉛筆を手にした定子の心根を思ひ泣けて仕方がなかつた。この戰ひに敗れたならば娘はどうなるか、自分は死んでも勝ち抜けば子供達が必ず次の日本を背負つて起つことが出來ると痛切に感じ「女子供に自決を強へて散つたサイパン勇士の胸中はいかばかりであつたか……」と、それから夢中で働いた。

撃滅の翼

腦裡に描いて敢闘また敢闘

進抄工　**太田一雄**

定子ちゃんの手紙を讀み上げる工場長の聲を聽いた時はいきなり眼頭がぢーんと熱くなつた。大空をキッと睨みつけてゐる子供達の顔、勇士の首にしがみついて死んでゐたといふサイパン同胞の幼兒、その話を先生から固唾を呑んで聽いてゐる疎開兒童の姿などが心に浮び、それからは自分を忘れて働くのみでしたよ。

曾我工場長

定子ちゃんの手紙で再奮起した皆が必死に働く姿を見てゐるうちに大空を群れ飛ぶ新鋭機の雄姿に續いて鬱蒼と生茂る大森林が浮んだ。われわれの祖先が自分の代には役立たぬを承知で幾多の尊い犠牲を拂ひながら植ゑた大森林、帝國の繁榮、子孫のために献身した祖先の尊い血と汗の結晶が浮んだのです。幼い子供の切々たる激勵の聲に私は祖先の叱咤を感じ民族の叫びを聞いた。お互に苦勞を續けたのだから勝利の日をこの目で見たいと思ふことだがそんなことでは勝てないとサイパンの英靈が叫ぶのが聞えるやうだ。

美しい心の話

第五話　試鳴

サイレンの試鳴があるといふ朝、驛前は通勤戰士の群でゴッタ返してゐた。折からブーウとサイレンの響き。「オイ警報發令だぞ」「アレは試驗だよ」など通り掛りの人が話し合つていく。そこへ驛から出て來た中年の婦人が何を思つたか一瞬に走り出した。そのとたんに下水路につまづいてもんどりうつた。手にした風呂敷包みが路上に投げ出され、中からころがり出た瓶がガチャーンと片々に散乱した。婦人はすぐ起上らうとしたが余程つよく打つたらしく膝をついてしまつた。

「おばちやんこれお薬でせう」六つばかりの女の子が瓶の破片をみつめていつた。「えゝ、さうですよ、お嬢ちやんの母ちやんは？」「あそこよ―あら」女の子はあちらこちらを見廻したがそれらしい人は見當らなかつた。「どうしたの」「ゐないの、ゐないの」子供は眉をしかめて目を細くするとクスンクスン泣き始めた。サイレンは空襲警報の試鳴に變つてゐた。

とをいひながら嬉しさうだつた。「有難う、もういゝの」ちらばつてゐる錠劑を拾ひ集め、一々前掛で拭いた。「これとても苦いのでせう。あたし飲んだことあるわ」子供はそんなことに

尾野稔

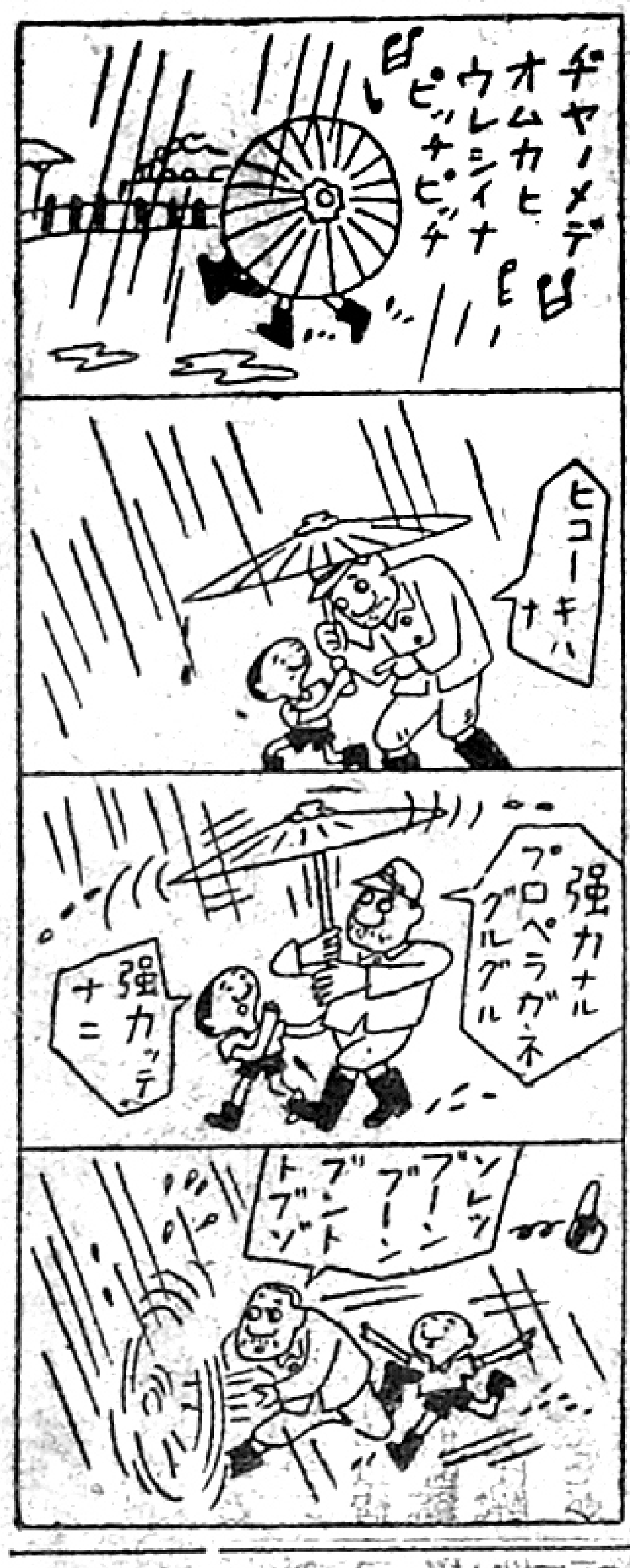
綜合藝術展の短歌募集規定

綜合藝術展の短歌を左の規定で募集中

△課題＝職域防衛に資するもの
△一人二首はがきに認めること
△選者＝長谷部親孔、山崎敏夫、挑布弓月、岡川平一、淺野梨郷
△送り先＝選者宅いづれにても可
△締切＝五日

レンサイマンガ　花山家前進（五）

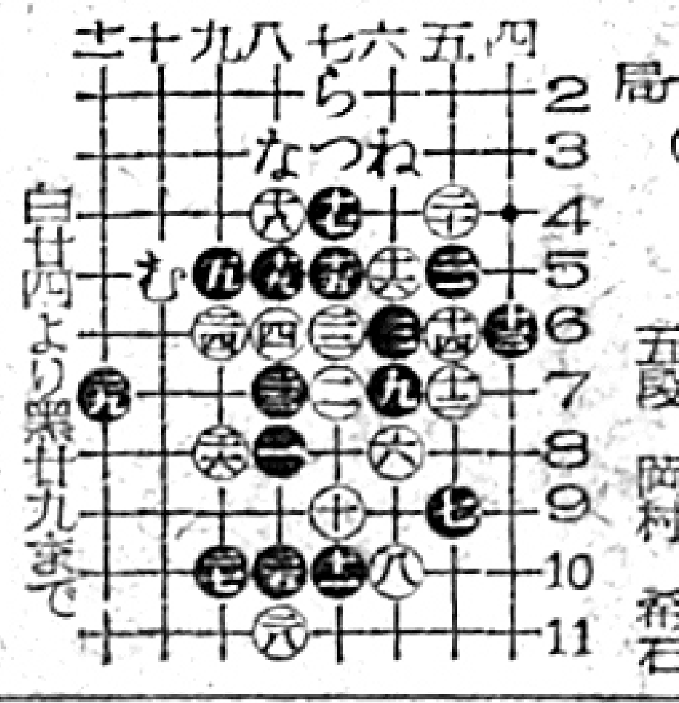
小泉貞雄


ヂャノメデ
オムカヒ
ウレシイナ
ピッチ・ピッチ
ヒコーキハ
ナ
強カナル
プロペラガネ
グルグル
強カッテ
ナニ
ソレッ
ブーン
ブーン
ブーン
トブゾ

五六七段　選抜聯珠戰

廿一局⑧

先番　六段　横溝　紫雲
五段　岡村　希石



觀戰評

名人　高木楽山

黒十九は、十七と相俟つて折角打つ手もあるが、何となく上辺に執着をもち過ぎる感がある。これは一先づ手を拔いて下辺の（二八）の點に打つて見たかつた。

白廿、廿二の順は、黒の模様を消したのであらうが、これは形を極めて損である。白廿で（二四）に叩いて置き、黒廿一より引かせて手番を待つべきだ。

黒廿一、廿三の應手は至當。白廿四は、黒に（つ、ね、な、ら、む）の追勝があるので已むを得ない。

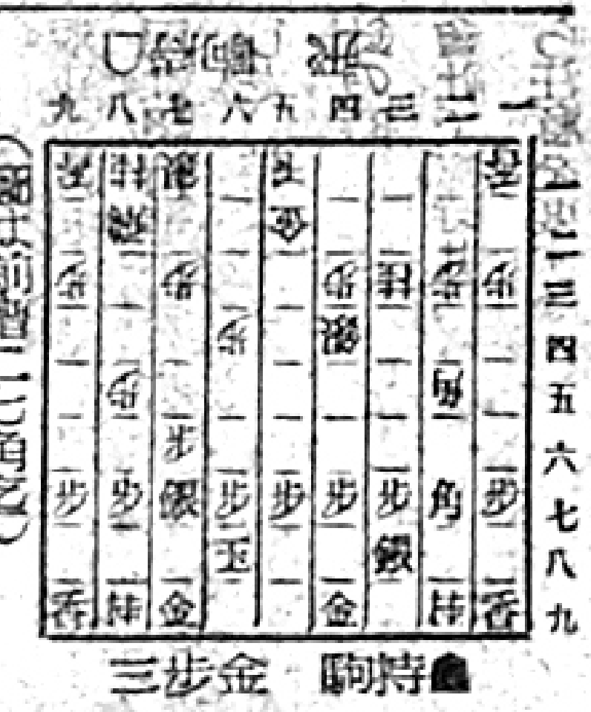
黒廿五は、何だか焦燥してゐる樣だ。これは大きく（二八）に打つ方が勝つてゐる。

將棋⑦

五段　☖高柳敏夫
先四段　☗橋爪敏太郎

☖六五歩　☗二二歩　☖三四角
☗二一歩成　☖六六歩
（指手三十六手）

消費時間　☖一時間四十五分　☗二時間十四分



（圖は前譜二七角迄）

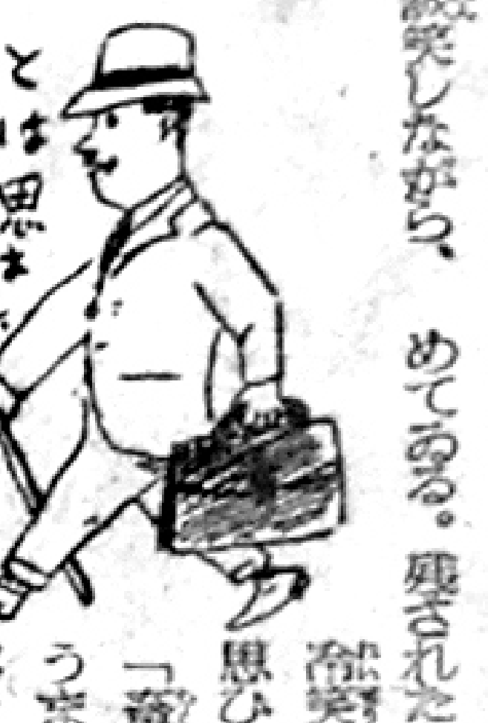
☗持駒　金歩三

解説

七段　大和久彪

二七角を見るや高柳氏は六四歩を継承して六五歩と突張り次の三四角で一氣に敵玉頭に殺到せんとの氣配を示す。如何にも溌剌たる元氣一ぱいな新進の意氣ではあるが、こゝでぐつと腰を落着けて四二玉と一旦二二歩に備へるのが含みの深い手であつたらう。老練將棋巧者の橋爪氏は慌てず急がず二二歩と背後からの攪亂戰術で敵の攻めを牽制せんとする。こゝまでくれば六六歩は騎虎の勢といふべく局面は俄に活氣を帯びてくる。

笑篇　苦心のほど



家庭菜園の成績について、盛んに談笑しながら、身だしなみのよい紳士が二人或る日の市電に乘つてゐたと思つて下さい。

「あつ君、失敬するよ！」何を見つけたのか、一人が突然飛降りるやうにして下車したのを見ると、鞄の中から紙袋を出して路上の馬糞をかき集めてゐる。殘された方の紳士は冷笑するかと思ひのほか、

「畜生……、うまくやりやがつたナ……」と、しきりに羨ましがつて窓の外をキョロキョロ……

伊馬鵜平

豆知識　水

人体の四分の三は水分で出來てをり水分は生命の源です。もし水分を約二〇パーセント失ふと激しい渇きがともなつて食慾がなくなり、内臓の働きが鈍つて五六日の中には死に至ります。健康な人は一日に凡そ一升から一升三合の水分を攝つてゐます。これが体の働を整へるのに要する量です。從つて盛暑時には是非清水の用意を忘れないやうにしたいものです。

國民音樂　敵性撃滅⑧

頽廢歌謠の例

◇…昭和初年頃の流行歌に「アラビアの唄…沙漠に日が落ちて…」「私の青空…狭いながらも樂しい我が家…」といふのがあつた。歌詞を日本語に譯しただけでこの旋律は米國のジャズ歌をそつくり持ち込んだものである。これに續いて流行した「君戀し…宵闇せまれば惱は果てなし…」は「カルメンシルヴァ」の浮氣なところだけを特に眞似たやうなもので歌詞よりも旋律の方が頽廢的だ。これと同種なものに酋長の娘、女給の歌、ザッツOK、涙の渡り鳥、島の娘等がある。

◇…「島の娘」はハアーといふ唄ひ出しが地方民謠調でもその旋律を「涙の渡り鳥」と共に「君戀し」と比較したならば三曲の感じがあまりにも類似してゐるのに氣づくであらう。また二人は若い、月が鏡であつたなら、あゝそれなのに等と別れのブルース、雨のブルースは別々の意味で對照しながらその頽廢性を指摘しよう。

花吹雪【101】

小島政二郎　作
田代光　画

白刃の舞（二）

こんなことには馴れてゐるので、勤皇の一黨はさして驚きもしなかつた。

慌てゝ立ち上がつたりする者は一人もなく、皆落着き拂つて身支度だけは十分にすると云つた余裕のある態度だつた。

その中で一人刑部だけは、目に力を入れて、自分の手のうちの者ばかりか、新選組がまじつてゐてくれるか、忙はしく四方に目を配つてゐた。

「おお、沖田がゐる。」

肺病劍客、劍を取らせたら新選組隨一と云はれた長身の使ひ手、そのノソッとした姿を見て、これは面白い劍の舞が見物出來るぞと思ひ、血腥い興奮を覺えた。

「おお。」

勤皇黨は、しかしこの發見には愕然とした。新選組が猛者揃ひであること、これまでにも幾度辛き目に逢はされてゐるか、彼等は骨身にこたへて知つてゐた。

今までの落着きを忘れて、皆一齊にバラ／＼と立ち上がつた。

大亂鬪が始まつた。

多勢に無勢、縄目に掛かつた者は流石にないが、新選組のために手疵を負はされた者、一命を奪はれた者が、徐々にふえて行つた。無論新選組にも死傷者は出た。中でも、五郎は四五人斬つてゐた。彼は今夜の一番の使ひ手と見た沖田と刃を合はせようと、その方へ近付かうと思ふのだが、大勢入り亂れてゐて近寄れず、イライラした。

一方、旗上げの秘密を握られてゐる刑部の生死が氣に掛かつて、それを確かめたく、その思ひでもイライラしてゐた。

ふと五郎は、刑部のおいとへの執着を思ひ出した。

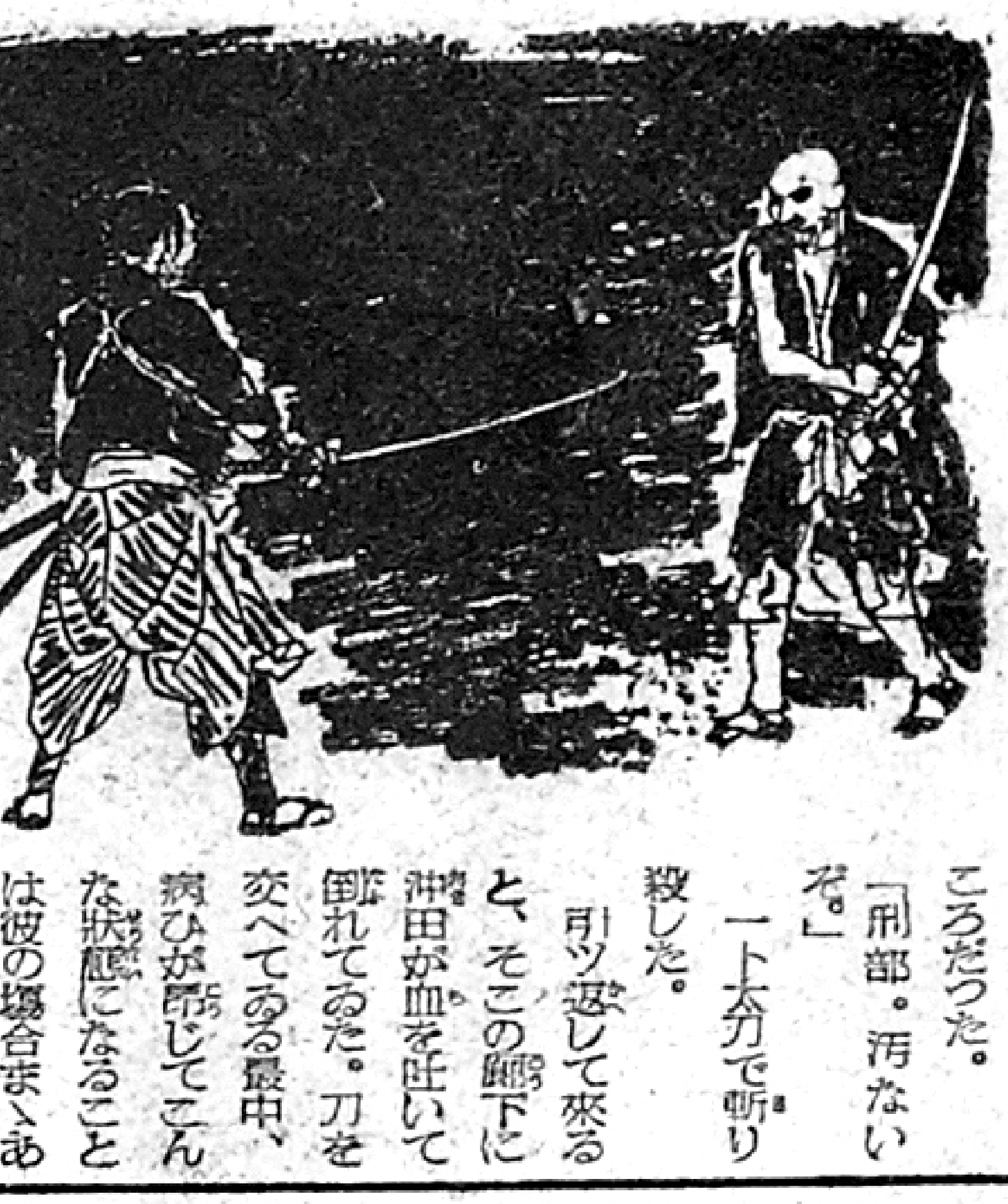
「さうだ。」

急いで女二人を入れて置いた小部屋へ來て見ると、想像にたがはず、留めるみづ玉のお上を蹴倒して、おいとを横抱きに、まさに廊下から庭へ下りようとしてゐるところだつた。

「刑部。汚ないぞ。」

一ト太刀で斬り殺した。

引ツ返して來ると、そこの廊下に沖田が血を吐いて倒れてゐた。刀を交へてゐる最中、病ひが昂じてこんな状態になることは彼の場合まゝあることだつた。



「沖田、一戰交へられないのは殘念だな。」

五郎が耳に口を寄せて云つた。

「うむ。」

薄目を明けて、微かに笑つて沖田が頷いた。その時、勤皇黨に「引き上げ」の合圖が鳴つた。

三日の後の旗上げの日、その日こそ鳥羽伏見の戰爭の火蓋を切つた日だつた。皇政復古の第一の日。

（をはり）

勤勞俳壇

加藤霞村選

―夕燒―

夕燒にふるさとこひし寮の窓　日本製糸　佐藤夏子
みづうみの波のこまかく夕燒けて　愛知工機　太田野舟
船團の大夕燒に入港す　中部運輸　村上永隆

大映特撰色大作　名作五所平之助…演出　新年新派大映合同作品　五重塔　花柳章太郎・森赫子主演　大須富士館

名作“暖流”を凌ぐ　高峰三枝子　水戸光子主演　松竹の名作　激流　弁天座

エノケンの三尺左吾平　黒川彌太郎、高峰秀子　東寶の贈る大爆笑篇！　朝日會館

新年新派大映合同作品　花柳章太郎、森赫子主演　五重塔　原作…川口松太郎　演出…五所平之助　帝劇

高峰三枝子　水戸光子　名コムビ　激流　げきりう　松竹映畫愛情の名作　千歳劇場

ベンガルの嵐　羅門光三郎、月丘夢路　宇佐美淳、逢初夢子主演　野淵昶…演出　大映の大活劇映畫　世界館

大映が贈る大活劇！　ベンガルの嵐　羅門光三郎・月丘夢路　宇佐美淳・逢初夢子　野淵昶……演出　名劇

李香蘭が唄ふ　万世流芳　袁美雲・陳雲裳外花形陣　中華、滿映、作品　常盤館

激流　高峰三枝子　水戸光子　演出……家城巳代治　松竹の愛情名作　大宮館

中村梅玉　阪東壽三郎　大歌舞伎　毎日晝一時夜五時半二回　1汐くみ　2大石最後の一日　3國姓爺　4茶壺　前賣券毎朝九時より發賣す　御園座

カワベ　キミオ　人生波止場六景、[illegible]　臨紀行、[illegible]　☆二日替り[illegible]　赤門劇場

一日初日　杉山昌三九一座　忍術の鳥居強右衞門　浪曲の大家港家小柳丸　近江二郎一座　黄花園

一日初日　杉平助　若手魂初出演　相場隆と築岡若櫻　日本橋きみ榮　太陽館

女劍界の大立物日本一！　不二洋子大一座　一日初日　八幡ばやし　五景　三十三間堂　四場　歌舞伎座

一日初日　吉十郎女昇の歌舞伎　嵐國の新生わらわし座　酒井淳之助一座　富士嶺子一座　浪曲　三日目　七寶演藝館

只今上映中　敵は幾万ありとても　演出・齋藤寅次郎　古川緑波主演　月田一郎　花井蘭子　黒川彌太郎　同時封切　文化映畫　修道　六百五十万の感激　日本ニュース第二二三　田舎町の國民學校に、まんまるいニコ／＼顔の人情家の校長先生、泣いたり笑つたり、怒つたり、ユーモアたつぷりの純情の老校長先生　まるで綠波そつくりの校長先生　朝日館　京映劇場　日の出館　今池劇場　大寶劇場　八幡劇場

只今上映中　河童大將　演出・松田定次　嵐寛壽郎主演　羅門光三郎　原健作　橘公子　同時封切　文化映畫　海を耕やす　寶への船　日本ニュース第二二三　永祿十三年六月尼子勢蹶起の時が來た。然し戰ひ利あらず尼子勢累卵の危ふきに立至る。此の時七十人の足輕河童部隊を率ひて夜の湖水を泳ぎ渡る河童大將……　豊田館　築地松竹　内田橋劇場　豊富館　名寶劇場　八重垣劇場